

「市民参加による間伐勉強会の実施について (第2報)」

三陸北部森林管理署
平津戸森林官 久坂浩志

1 はじめに

天然更新によって森林の造成が可能な林分の森林整備を進めるに当たっては、公益的機能の発揮の面から、針葉樹単純林から針広混交林への育成複層林誘導をめざした森林整備を進めることとしています。

森林総合研究所のOBもメンバーとなっている(社)東北地域環境計画研究会(以下「研究会」という。)が、当署管内のこのようなカラマツ人工林を取り上げて、林内に自生している広葉樹を活用して早期に針広混交林化する間伐手法について、試験地を設置して、平成17年度から現地で実際に取り組んでおります。

現地での作業実施に当たっては、ボランティア等市民参加による体験林業として取り組み、森林の持つ公益的機能の発揮を市民の方々に理解して頂くことを狙いとして計画することから、当署としては、研究会の学術的な専門性と国有林の現場のノウハウを組み合わせれば充実した森林環境教育が可能と考え、国有林のフィールドを提供するとともに、この体験林業のイベントを共催して取り組むこととして、17年度は、この場で「カラマツ造林地を針広混交林へ誘導する手法について」と題し、第1報として報告したところです。

また、昨年度実施したアンケートの結果から、森林整備に対する関心が高く、実際に間伐等の体験林業等に参加したい意向が伺えたことから、市民参加の間伐勉強会「間伐運動会 in よこくらさわ2006」を今年度も関係機関と共催で実施したので、今回は、昨年度からの経過と18年度の取組みについて第2報として発表します。(表-1)

なお、間伐運動会の名称について簡単に説明します。

「運動会」としたのは、競い合うことではなく、みんなが参加でき、一つの目標に向かって協力し合うことと、誰もが心うきうきするネーミングであると考え研究会で命名したものです。

2 取組の経過

18年度の「間伐運動会 in よこくらさわ2006」を実施するに当たり、17年度の反省を踏まえ、実施に当たっては、事前に関係機関に打診し、共催の了解が得られた次の

2005実施アンケート結果(調査10月8日)

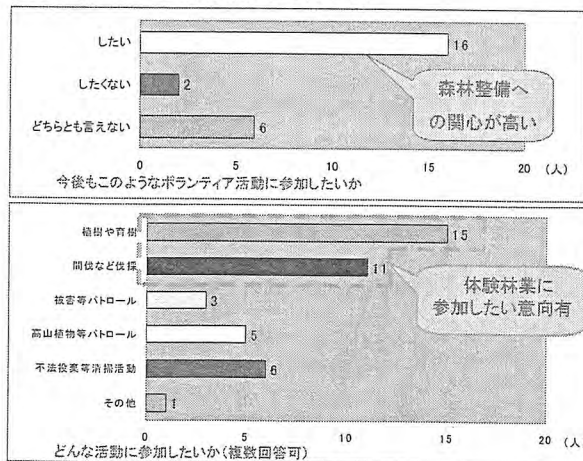


表-1

団体、(図-1)の6者が中心となり取り組むこととし、文書での連絡や現地での打ち合わせを重ねるなど準備に取り組みました。

打合せ内容は、実施日、費用負担、作業用具等の調達、現地までの交通手段、安全対策等についてで、参加者の募集方法、運営費用及び交通費並びに傷害保険等については、募集团体で対応することとし、参加者に対しては費用負担を求めないことを確認しました。

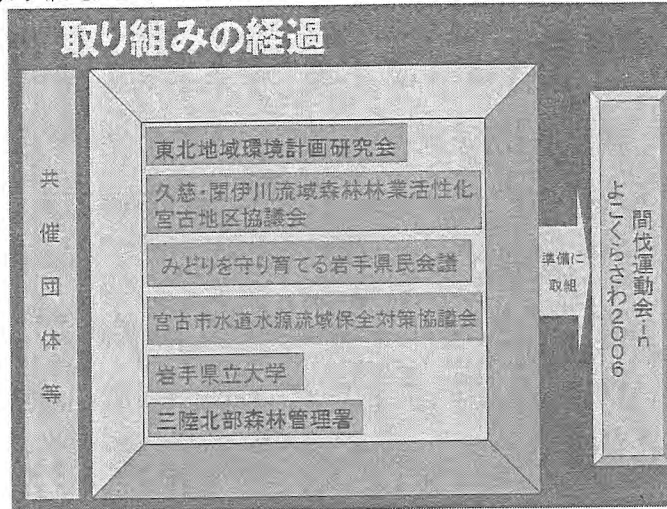


図-1

また、作業の方法は、17年度実行箇所の隣接箇所に猛禽類の餌の狩り場となることも期待して、4m幅でカラマツを伐採、広葉樹は残す、更に8m残存する「2伐4残」列状間伐法により、等高線に対して「上下方向」で実施することとしました。(図-2)

現地は、植栽列がはっきりしないため、事前にテープで列幅を表示しました。

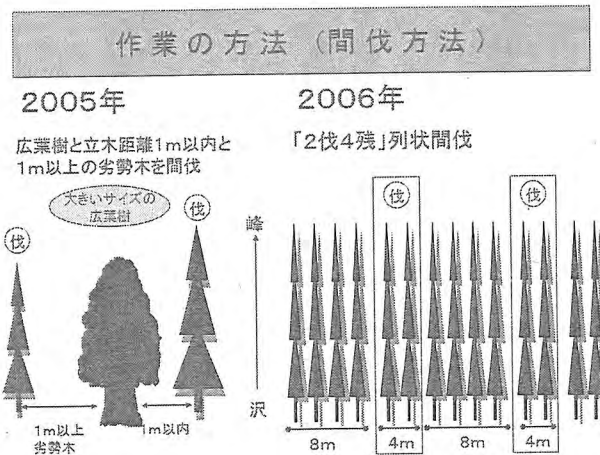


図-2

3 実施概要

◎今年度の間伐運動会について説明します。「間伐運動会in横倉沢2006」は、10月1日曜日に実施しました。当日の参加者は、関係機関が働きかけた結果、主催者も含め65名の参加がありました。

場所は、前年度の実施箇所と同じ林小班内で行い、試験地を隣接し、間伐方法による林分の状況が比較しやすいように考えました。(図-3)

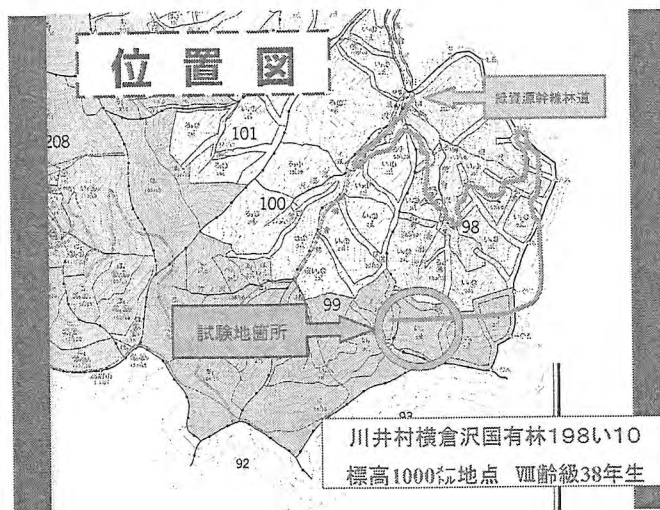


図-3

実施方法は、参加者が安全に作業が行えるように、班編制を行い、責任者を配置すると

ともに、作業開始前に安全指導と、その後、参加者全員で準備体操を行った後、林内に入り、広葉樹稚樹の成長を助けるためと、作業が安全に出来るよう林床のササ刈り作業を体験しました。

次に、当署職員の模範伐倒を見学していただき、伐倒方向選定等の伐倒技術について勉強していただきました。(図-4)

伐倒した間伐木を手鋸による枝払い、玉切りし、材を林道付近まで運び出しました。また、参加者に対して列状間伐木の調査方法の体験として、選木と測樹そして野帳の記載を行いました。(図-5)

昼食時には、参加者を対象に勉強会を実施しました。

内容は、研究会から「現地における森林の取扱い、列状間伐の特徴と調査方法について、間伐運動会で設定した間伐設計について」、岩手県宮古地方振興局から「森林環境税による森林整備事業の宮古地区の実情について」、当署から「北上高地緑の回廊の森林整備について」説明し、その後若干のディスカッションを行い理解を深めました。

更に、午後も作業を実践していただき、その後、反省会及び閉会式を行い、午後3時、無事全ての日程を終了しました。

今回のイベントは、地元のマスコミにも取り上げられ、滝沢村の40歳の男性から「言葉で知っていた針広混交林への誘導はなるほどこうするのか等が見えてきた」また、大学生で参加した20歳の女性からは「環境を保全するため森林整備の必要性は理解したし、作業を体験して大変さを実感した」との参加者からの好意的な感想が掲載されました。

次に、混交林へ早期に誘導するための試験研究の経過について報告します。



図-4



図-5

17年度の「間伐運動会」では、調査木を全て伐倒出来なかったため、今年度6月に研究会が呼びかけてボランティアの協力により残りの調査木を全て伐倒しました。このことにより、今後、試験地内の広葉樹や植生等の経過についての調査に支障がないようにしました。(図-6)

また、9月23日に、全間伐木の伐倒後の広葉樹損傷状況を調査しました。

その調査表です。(表-2)

試験地内の樹種には、全てナンバーテープで表示するとともに、座標値で位置も把握しているので、今後、これらの損傷木がどのような成長の推移を示すのか引き続き調査して参りたいと考えています。



図-6

また、間伐前と間伐実施後の林内相対照度について、ボランティアで参加された大学生のデータによると「間伐による林内の明るさの変化を相対照度で示すと、間伐前は、平均4.4%であったものが、間伐後は平均15.2%となり、10ポイント以上の明るさが増え、下層植生の生育にも好環境になったことが期待できると思われる。」との測定結果も出されております。

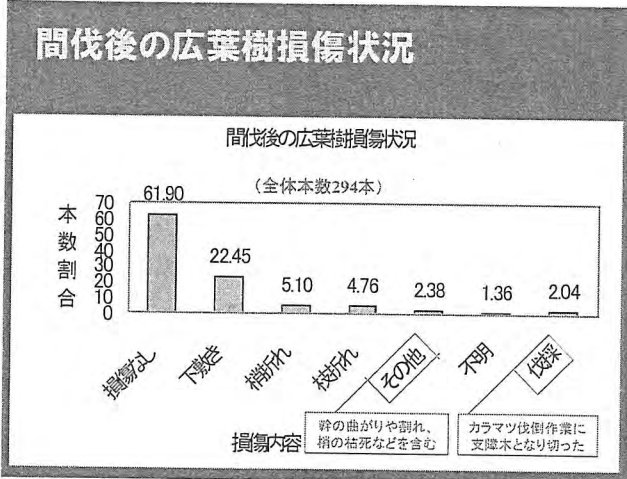


表-2

4 実行結果の考察と今後の展望等

間伐運動会を実施しての良かった点は、

- ・ 林業関係者以外の方々やリピーターの参加者が多くなってきたこと。
- ・ 共催関係機関以外から協力の申し出がありトイレの設置等の協力があつたこと。
- ・ 参加者から林業労働の大変さと、森林整備に対する関心が深まったとの意見が出されたこと。

反省点としては、

- ・ 試験区が小面積のため、大人数の場合の作業配置について、安全上から作業の進め方に工夫が必要であったこと。
- ・ 間伐木は太いものが多く、手鋸作業では難しい箇所であったため、見学時間が多かったこと。
- ・ 各関係機関において運動会への取組に温度差があり、また、地域のイベントと重なり参加できない機関もあつたこと。

今後の展望

来年度も「間伐運動会」を継続実施することとし、実行に当たっては、

- ・関係機関を組織化し、実施予定日の確定を含め、早めの行動と地域行事等の調整を図ること。
- ・大人数が参加した場合の実施方法を工夫して参加者に満足感を与えること。
- ・勉強会のテーマや方法、時間設定についての工夫を図ること。
- ・次年度は等高線に対し「左右方向」の列状間伐を試みること。

更に間伐試験地については、5年後に再度林分調査を行って、針広混交林となった人工林の多様性向上の効果等について検証する考えであること。

- ・いろいろな間伐方法による作業の効率や難易性・間伐の効果の比較研究を試みること。
- ・将来、森林の手入れに関する学習の場として利用することも計画すること。

将来に向かっては、試験地における調査結果を基に、今後大幅に増えてくる間伐等の森林整備に対して科学的データを蓄積して、実践的な体系を確立し、今後の施業における技術合理性の一助になるよう努力するとともに、これからも間伐運動会等のイベントを通じて市民の方々に森林整備の必要性を理解していただくよう努めてまいりたいと考えております。

発表に当たっては、東北地域環境計画研究会からご指導、ご助言を頂いたこと、また、関係機関から写真等の資料の提供に感謝して以上で発表を終わります。